

スポトピ

ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦

一斉観戦事業成功に向けての取り組み

児童が安心安全に楽しく観戦できるよう、事前準備から当日まで、保護者ボランティア、サポーター団体をはじめたくさんの方々にご協力いただきました。皆さまのおかげで無事開催することができました。

事前の応援指導

サポーター団体が希望校に訪問し、応援指導をしました。「小学生に、応援による一体感や喜びを味わってもらいたい。そして、より一層観戦を楽しんでほしい」というサポーター団体の願いから、2016年度よりボランティア活動として実施しています。今年度は、市内公立小学校20校のうち12校で実施しました。



ジュビロ磐田応援給食

小学生一斉観戦に併せて、ジュビロ磐田への勝利を願い、みんなで「ヒレカツとほうれんそうのカレー、ブルーフルーツカクテル」を食べました。



試合当日の準備・運営

児童がけがなく観戦できるよう、市職員約120人が従事しました。また保護者など186人もボランティアスタッフとして見守り活動を行いました。



☎ 磐田市スポーツのまち推進課
☎ 0538-37-4832

ゴールデンウィークを明けると、磐田市の風景は一気に夏模様に移り変わります。田んぼには水が張られ、遠州の風が植えられたばかりの稲苗を揺らし、お茶畑は一番茶の収穫が終わり、きれいに狩り揃えられ、これから二番茶に向けて芽吹き始めます。

古くから水は命の源として、農作物にとっても、私たちの暮らしや産業にとっても、大切にされてきました。

磐田市の水田を潤す寺谷用水は、約400年前に築かれたものを基盤としています。水は川上から川下へ流れるため、使い方次第では争いにもなり得ます。先人たちは「井組」という組織をつくり、互いに支え合いながら水を守り、

分かち合ってきました。磐田原や東部地区の用水も長い年月をかけて整備され、今も地域を支えています。

今春は雨が少なく水不足が心配され、水は自然からの大きな恵みだと痛感しました。一方で、近年は豪雨災害も増え、同じ水が私たちの暮らしを脅かすこともあります。先人は水を利用するだけでなく、自然への畏れを持って備え、その知恵を受け継いできました。

豊かな実りも安全な暮らしも一朝一夕には築けません。自然への感謝と畏れ、地域を支えてきた先人への敬意を忘れず、この豊かな風景を次世代へ引き継いでいきたいと思えます。



大クスの下から

第57回

雨と水の大切さをかみしめる

市長 草地博昭